

平成25年度 全国学力・学習状況調査 上富良野町の結果について

I 調査の概要

1 調査の目的

- ・ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ・ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査対象学年 町内小学校第6学年、町内中学校第3学年 原則として全児童生徒

3 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語，算数・数学）

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・ 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査 （例）国語の勉強は好きですか，授業の内容はどの程度分かりますか，一日にテレビを見る時間，読書時間，勉強時間の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 （例）学力向上や学習の定着に向けた取組，習熟度別少人数指導，教育の情報化，教員研修，家庭・地域との連携の状況 など

※25年度調査は、きめ細かい把握・分析ができるよう複数化（3冊子）して実施

4 調査の期日 平成25年4月24日（火）

5 調査を実施した学校・児童生徒数(全国悉皆調査)

	実施率	参加児童数	参加生徒数
全 国（公 立）	99.4%	1,108,272	1,027,458
全 道（公 立）	99.6%	43,575	43,395
上富良野町 全 校	100%	101	95

II 調査の結果

※ 今回の調査で測定できるのは「学力の特定の一部」であり、子どもの学力の全てでないというおさえに立っています。

1 児童生徒の学力の状況について

(1) 小学校

科 目	全道平均	全国平均	全国に対する上富良野町の傾向
国語A(主として知識)	60.4	62.7	全国平均正答率よりやや下回る
国語B(主として活用)	46.4	49.4	全国平均正答率よりやや上回る
算数A(主として知識)	74.9	77.2	全国平均正答率よりやや下回る
算数B(主として活用)	54.0	58.4	全国平均正答率よりやや下回る

(2) 中学校

科 目	全道平均	全国平均	全国に対する上富良野町の傾向
国語A(主として知識)	76.0	76.4	全国平均正答率よりやや上回る
国語B(主として活用)	66.2	67.4	全国平均正答率より上回る
数学A(主として知識)	62.3	63.7	全国平均正答率よりやや上回る
数学B(主として活用)	39.1	41.5	全国平均正答率よりやや上回る

小学校は、国語・算数ともに全国平均正答率より下回っているが、全道平均正答率より上回っている。また、国語・算数ともにA知識がB活用よりも低い傾向が見られる。

中学校は、国語・数学ともに全国平均正答率を上回っており、特に、国語Bが4ポイントを超えて上回った。

2 児童生徒質問紙の傾向について

※ 共通質問62項目のうち、特徴のあるものを抜粋しています。

※ 網掛けは、全国平均より高い結果を表しています。

※ 数字は%、「している」「どちらかといえばしている」など肯定的な割合の合計です。

(1) 家庭での生活・学習について

質 問 事 項	小学校	全 国	中学校	全 国
朝食を毎日とっている	98.0	96.3	97.9	93.8
家の人と一緒に夕食を取る	93.0	89.0	92.6	82.8
規則正しい就寝・起床をしている	91.0	84.9	85.8	83.3
家の人に学校の出来事を話す	86.2	76.5	78.9	66.6
家で、計画を立てて勉強している	68.3	58.9	31.5	44.5
家で、宿題をしている	97.0	96.4	71.6	66.8
家で、予習をしている	45.6	41.3	22.1	33.5
家で、復習をしている	76.2	51.4	50.5	48.6

○平日、1日当たりどれくらいの時間、TVやビデオ・DVD見たり、聞いたりしますか？

	4時間以上	4時間～3時間	3時間～2時間	2時間～1時間	1時間以下	全く見たり、聞いたりしない
小学校	19.8	22.8	21.8	19.8	13.9	2.0
全国	20.0	18.6	23.9	23.6	12.3	1.6
中学校	12.6	18.9	31.6	21.1	14.7	1.1
全国	14.0	15.7	25.8	27.6	15.0	1.8

○平日、1日当たりどれくらいの時間、TVゲーム(コンピュータ・携帯式ゲーム含む)をしますか？

	4時間以上	4時間～3時間	3時間～2時間	2時間～1時間	1時間以下	全くしない
小学校	5.9	18.8	14.9	24.8	25.7	9.9
全国	7.5	7.4	13.3	24.8	31.5	15.4
中学校	6.3	3.2	18.9	30.5	25.3	15.8
全国	7.3	7.0	13.2	20.5	28.8	23.1

○平日、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか？(学校の授業以外で学習塾や家庭教師に教わっている時間も含む)

	3時間以上	2時間～3時間	1時間～2時間	30分～1時間	30分以下	全くしない
小学校	4.0	4.0	40.6	42.6	7.9	1.0
全国	11.5	15.6	36.1	24.5	9.0	3.2
中学校	2.1	13.7	33.7	20.0	15.8	14.7
全国	10.5	26.0	32.1	16.6	8.8	5.9

家庭での生活・学習について、小学校・中学校ともに基本的な生活や家庭での学習習慣が身に付いている。しかし、テレビ・ビデオ等の視聴に費やす時間が多く、家庭学習の時間が、全国平均よりも少ない傾向である。

(2) 学校での生活・学習について

質 問 事 項	小学校	全国	中学校	全国
学校に行くのは楽しい	83.2	85.0	85.3	80.5
学校のきまりを守っている	84.9	90.6	96.8	92.5
国語の授業は好き	61.4	57.9	70.5	57.7
国語の授業の内容はよく分かる	81.2	79.9	82.1	71.9
算数・数学は好き	64.4	66.2	52.7	55.5
算数・数学の内容はよく分かる	85.2	80.2	62.2	70.5

学校での生活・学習について、中学校では、「学校に行くのは楽しい」、「きまりを守っている」が全国平均より高い傾向であるが、小学校は、低い傾向が見られる。

国語の授業が好きで、授業の内容はよく分かるが、小学校・中学校ともに、全国平均より高い傾向である。

(3) 関心・意欲・態度等について

質 問 事 項	小学校	全 国	中学校	全 国
最後までやり遂げうれしかったことがある	96.0	94.3	97.9	93.7
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している	25.7	23.8	73.7	66.8
自分には、よいところがあると思う	78.2	75.7	64.3	66.4
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある(テレビやニュースなど)	58.4	56.4	51.6	51.8
人の気持ちがわかる人間になりたい	92.1	83.0	96.8	94.2
いじめはよくないと思う	100	95.5	91.6	93.5
人の役に立つ人になりたい	93.1	93.6	97.9	90.3
将来の夢や目標を持っている	89.1	88.7	75.8	73.5

小学校・中学校ともに、「最後までやり遂げてうれしかった」、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する」、「人の気持ちがわかる人間になりたい」、「将来の夢や目標を持っている」は、全国平均よりも高い傾向である。

小学校では、「いじめはよくない」、「自分にはよいところがある」、「地域や社会で起こっている問題等関心がある」が全国平均より高い傾向で、中学校では、「人の役に立つ人になりたい」が全国平均より高い傾向である。

(4) 読書について

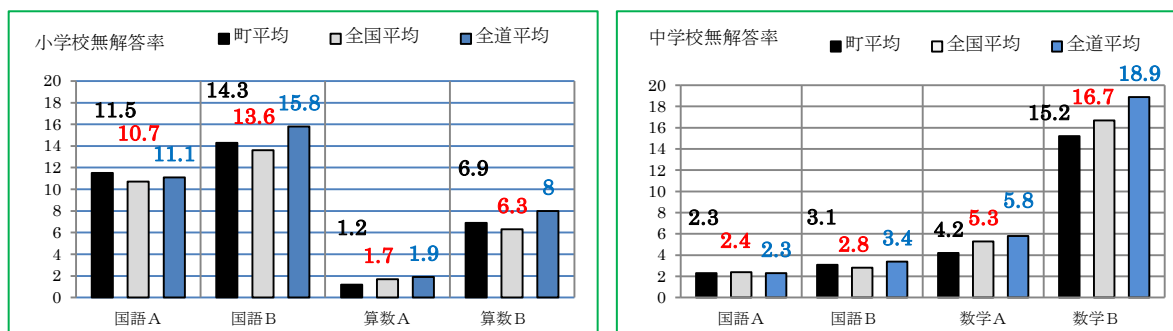
質 問 事 項	小学校	全 国	中学校	全 国
読書は好きだ	98.0	96.3	90.5	70.1

○平日、家や図書館で、1日当たりどれくらいの時間読書しますか？

	2時間以上	1時間～2時間	30分～1時間	10分～30分	10分以下	全くしない
小学校	4.0	15.8	24.2	21.8	14.9	18.8
全 国	6.1	10.3	20.2	26.3	16.2	20.8
中学校	5.3	9.5	16.8	38.9	7.4	22.1
全 国	5.6	8.7	15.2	21.9	12.6	36.0

小学校・中学校ともに、「読書が好き」で、毎日、読書の時間をとっており、また、「全く読まない」と回答した児童生徒は、全国平均より少ない。

(5) 児童生徒の無解答率の状況について



【小学校、中学校共通】

無解答率について、小学校は、算数 A が全国平均よりも無解答率が低い傾向が見られた。また、国語 B と算数 B は、全道よりも無解答率が低い傾向である。

中学校は、国語 B 以外は、全国平均より低く、特に、数学 A・B は、全国平均よりも 1 ポイント以上無解答率が低い。

Ⅲ 課題と今後の取組

- 1 小学校・中学校ともに、A 知識が B 活用より平均正答率が低い傾向がある。今後、基礎的・基本的な知識や技能、学び方の確実な定着に向けて、組織的に取り組む学校力や授業力を高める。また、落ち着いた教室で集中力を高めるための学習約束・きまりの徹底や学習の場にふさわしい環境を工夫する。（研修の充実、板書や掲示物の工夫、活動の様子等）
- 2 小学校・中学校ともに、TV・ビデオ等の視聴や、TVゲーム等に費やす時間が多く、家庭での学習時間が少ない傾向がある。今後、宿題や予習・復習等の家庭学習の充実のため、「進んで学ぶ上富っ子 家庭学習のすすめ」や各学校の「家庭学習の手引き」を活用し、授業と関連した家庭学習の取組を工夫する。
- 3 小学校・中学校ともに、基本的な生活習慣や道徳的な考え方、読書などよい傾向が見られている。今後もこのような状態を継続させていくため、学校・家庭・地域、そして行政が連携し、子ども一人一人に目を向けた取組を更に充実させる。